

カトリック香里教会 年間第24主日 2021年9月12日
— イザヤ50・5-9a、ヤコブ2章・14-18、マルコ8章・27-35 —

それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。」 -マルコによる福音 35章-

嫌なお人(サタン)の親切よりも
好いたお方(イエス)の無理がいい

心惹かれるものを見せて、その虜にさせるのは、サタンが人間を支配するための常套手段です。イエスは反対に、永遠の命を与えるために、私たちが厭う十字架を与えます。

それは、私たちの本性が「自己保身・自己中心性」のエゴイズム(自我)で覆われて「愛の神」とは相容れない故に、私たちが、神とつながるために、自我が欲するものから解放されて「愛の人」になる必要があるためなのです。

「愛の神」とは相容れない「自我」が、サタンが私たちが支配するために最も恰好な住処であることを知る人は少ないようです。それをいいことにサタンは自分が存在しないかのように思わせて、人の中でその人を自由にコントロールするのです。この闇の存在を、私たち一人一人が知るようになれば、人はサタンの餌食となる被害を避けて神に向かう道を受け入れるようになるでしょう

私たちにとって真の敵は人ではなくて、人の中でその人をコントロールしている悪霊なのです。悪霊に支配されたその人のことは、救われるための祈りが必要な対象であることを知らなければなりません。イエスが仰る“あなたの敵を愛せよ”とはその意味なのですから！

ですから、悪人に対して力(自我)で制しようとするのは、それこそ自我に住む悪霊の思うつぼであり、自我と自我が対峙して戦争になり、共に滅んでいくのが悪霊の狙いです。

ペトロが主を諫めたのは、「奇跡をおこなう力あるイエスは、祖国を虐げている大国を力で制してくれるメシア」と考えていたゆえに、メシアが十字架に屈するなど、とんでもないことであり、イエスには、持っている力で敵を叩き潰してもらわなければならなかったからでした。

でも人類が、世の悪、世の敵に勝利する道は唯一、自分自身の十字架で、自我に死んで悪霊を敗北させること。すなわち、拘束された体への執着を捨てて、自由な心で神に向かう生き方で、神に身を委ねることだとイエスの十字架は私たちに語っているのです。

2021年9月12日 主任司祭 昌川信雄

